



町長
古谷 一夫

町長就任にあたり、町民の皆さまにご挨拶を申し上げます。
今般実施されました清里町長選挙におきまして、多くの町民皆さまのご支援をいただき町長に当選し、その重責を担わせていただくことになりました。

選挙そのものは無投票での当選となりましたが、無投票だからこそその責任の重さを強く感じているところであります。

今後4年間にわたる町政執行の基本的な考え方については、6月定例会より詳細に表明させていただきますが、町長立候補にあたっては、「子どもたち・高齢者の笑顔は、みんなの笑顔」を、まちづくりの将来像として、

「町民だれもが安心して生活のできるまち」
「安心して子どもを産み、育てることのできるまち」
「元気なまちの産業経済と雇用を育むまち」
の3つの公約を掲げさせていただきました。

また、この公約を実現するための6つの戦略として、
「人づくりと未来への投資」、「女性と高齢者活躍の地域づくり」、「地域資源の活用と付加価値化への挑戦」、「住民自治と地域協働の新たな仕組みづくり」、「積極的な広域連携と地域情報の発信」、「ひらかれた行政への取り組み」を示してきたところであります。

ご存知の通り、清里町の人口は現在、町が取り組みをすすめている第6次清里町総合計画の最終年、令和12年度の目標人口とする3,800人を既に割り込み、緩やかとはいえ人口減少に歯止めがかからない状況

が続いております。また、少子化と超高齢化がすすむなか、新型コロナウイルスの影響に加え、ウクライナ情勢や円安による急激な物価高騰が、町民皆さまお一人お一人の日々の生活、そして基幹産業である農業を始め商工業、建設業など地域経済のあらゆる分野に極めて大きな影響をもたらし、将来に対する不安の拡大につながっていると認識するものです。

また、こうした環境のなかで、新型コロナウイルス禍により地域でのイベントや自治会活動、団体活動、コミュニティ活動なども大きく制限され、人と人との交流やふれ合いが極端に少なくなり、今後、自律的なまちづくりをすすめるにあたって、地域協働や共生をもとに地域活力をどのように再生していくかも大きな課題となっております。

これら直面する町政の諸課題に役場職員と共に正面から向き合い、介護や福祉、医療、教育などの基本的な住民サービスの維持と支援、地域交通の確保など、町民皆さまが安心して暮らし続けることのできるまちづくりを基本に、未来志向により、子ども子育て支援対策や地域経済振興、さらには若者雇用対策、女性と高齢者活躍の場づくりなど、ひとつひとつの課題に、議会はもとより町内関係団体の皆さまのご理解と連携のもと、「チーム清里」として丁寧に取り組んでまいります。

人口減少や少子化、超高齢化などは清里町のみが抱える課題ではなく、全国・全道どの市町村もが抱える共通の課題です。この課題を克服するための正解が、簡単に見いだすことができないことも事実です。

ただ私は、「小さい町だからこそ、自治体自らの確かな意思と町民皆さまの意識のあり様によって、現状を変えることができる」と考えるものです。

先達の皆さまが築かれた礎の上に、さらに清里町の持つ可能性を信じ、そして見いだし、「ふるさとの誇りを、次世代に繋ぐ」との思いを持って、町民お一人お一人の声を大切に町政運営にあたってまいります。

今後とも、自治の主体である町民皆さまの、「まちづくりへの積極的な参画」をお願い申し上げます、町長就任のご挨拶とさせていただきます。



議会議長
前中 康男

町民の皆さまには、日頃より町議会活動に対しまして温かいご理解とご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

このたび、5月9日に開われました清里町議会議員選挙後の初議会におきまして、議員各位のご推挙を受け、議長の要職を担うことになりました。このことは、私にとって誠に身に余る光栄であると同時に、改めてその職責の重大さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

議会は、二元代表制の一翼を担い、まちの将来を見据え、展望しながら、議決機関としての使命を果たしていかなければなりません。町民の皆さまの町議会に対する期待も大変大きいものがあるかと思えます。その期待をしっかりと受け止め、信頼される議会運営と議会の活性化、さらには議会改革に邁進する所存であります。

さて、2020年1月に新型コロナウイルス感染症が確認されたから、早3年半を経過しようとしております。5月8日より、

感染症の法律上の位置づけが季節性インフルエンザと同等の「5類感染症」に移行されましたが、まだウイルスとの共存が続く「ウィズコロナ」であり、これからアフターコロナという「新時代」に向けた歩みが進むことを期待し、町民の皆さまの暮らしを守る各種施策を展開していかなければなりません。

清里町は、人口減少や少子化、超高齢化が進む中、基幹産業である農業をはじめ、商工観光、医療・福祉、教育、地域コミュニティ、雇用、人材不足等の対策と充実、防災、道路、住宅、上下水道、地域交通等の生活基盤の整備、公共施設の長寿命化、さらには持続可能な財政運営など、重要課題が山積しております。

議会と執行機関は車の両輪を成していると言われます。離れ過ぎず近づき過ぎず、適度な緊張感を持ち、真摯な議論により、町民の皆さまの幸せを第一に考え、これらの諸課題の解決に全力で取り組んでまいります。

また、議会をより身近に感じていただけるよう、広報活動や町民懇談会等の広聴活動にも注力し、開かれた議会の推進に取り組んでまいります。

今後とも、町議会に対しまして、町民皆さまをはじめ関係各位のより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、議長就任のご挨拶とさせていただきます。

就任のごあいさつ



副町長
岸本 幸雄

このたび、5月9日開催の第3回清里町議会臨時会において、議会の選任同意を賜り、5月10日より副町長に就任いたしました。私にとりまして身に余る光栄でありますとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

長かったコロナ禍も治まり、世の中が以前の状態に戻りつつありますが、AIの発達等による産業構造の変化やウクライナ情勢の影響等による物価高が続く中、地方を取り巻く環境は、依然歯止めのかからない人口減少と少子高齢化により、町民の暮らしにも影響を与えかねず、これらの諸課題の克服に向けて、町としても積極的な政策展開をしていかなければなりません。

私は平成26年10月より約8年半、教育長として清里町の教育環境の充実のため努めてまいりましたが、これからは、「子どもたち・高齢者の笑顔は、みんなの笑顔」をモットーにスタートいたしました古谷町政のもと、これまでの経験を活かし、微力ではございますが、職員とともに「誠心誠意」努力する所存でございます。もとより浅学非才の身、町民の皆様には一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、清里町の子どもから高齢者まで、町中みんなが笑顔で、健康で幸せな生活が送れますようご祈念申し上げます。副町長就任のご挨拶とさせていただきます。これから4年間、どうぞよろしくお願いたします。



教育長
野呂田 成人

このたび、5月9日開催の第3回清里町議会臨時会において、議会の選任同意を賜り、5月10日付けで教育長を拝命いたしました。

私は平成元年4月より清里町役場に奉職以来、初めての教育部門での仕事となり、教育に関しては浅学非才の身、光栄であると同時に、改めてその重責を担うことに対し身が引き締まる思いであります。

ただ、もともとは教職を目指していた一人であり、3人の子育てを経験し、過去には「異年齢交流」として、北海道独特の文化である「下の句かるた、百人一首」を教育委員会事業として教えた経験や、地域活動、イベントにも積極的に参加してまいりました。

これらの経験を活かし、清里町教育の責任者として、町民皆さまの声を聴き「学びながら事業を行い、事業を行いながら学ぶ」を実践してまいります。

結びに、ストレスの多い現代社会において、心身の健全・健康は、子どもから高齢者まで重要であり、その予防に各年齢に応じた教育は切り離すことができないものと考えております。町民の財産である役場職員と共に、町民の福祉の向上に向け、微力ながら邁進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願し、就任のご挨拶とさせていただきます。